

## 【取組事例】

# 米子市立車尾小学校

＜1学年3学級規模  
学級担任と級外教員による教科担任制＞

### 1 指定校の概要

(H29.4.1 現在)	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	(H29.5.1 現在。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む) 教員数 27名
学級数	3	3	3	2	3	3	17	
児童数	85	86	83	71	92	89	506	

### 2 教科担任制の実施概要

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	1
6年1組	A	J	A	A	B	C	J	H	A	A	A	A	G
6年2組	B	J	A	B	B	C	J	H	B	B	B	B	G
6年3組	C	J	A	C	B	C	C	C	C	C	C	C	G

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	1
5年1組	D	I	E	D	FG	H	D	D	D	D	D	D	D
5年2組	E	I	E	E	FG	H	D	J	E	E	E	E	E
5年3組	F	I	E	F	FG	H	D	J	F	F	F	F	F

※A=6年1組担任 B=6年2組担任 C=5年1組担任  
D=5年1組担任 E=5年2組担任 F=5年3組担任 G～=担任外

### 3 研究の内容や方法等

29年度は、高学年に教科担任制を導入し2年目となる。高学年担任6人の中で、4人が初めて教科担任制を体験する。昨年の経験を生かし、良いところは追試し、課題を解決する取り組みをしていくことで、昨年以上の実績が出るのではないかと考え研究を推進した。

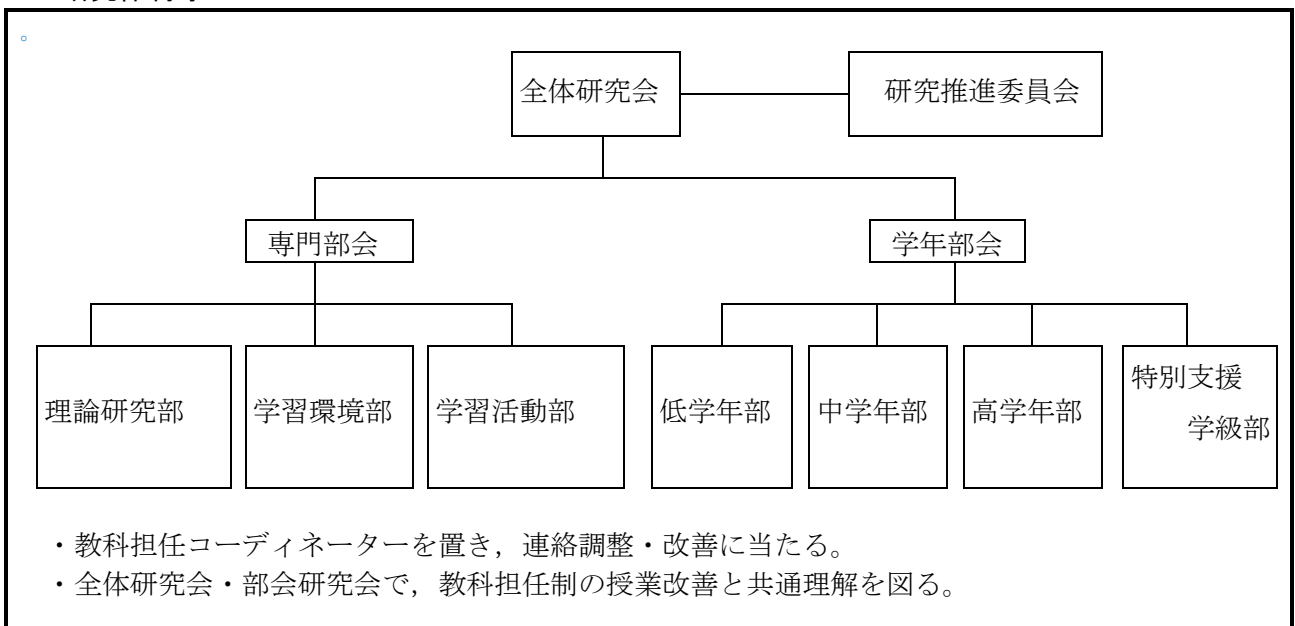
(研究の内容)

- ・「深まりのある話し合い活動」を意識した授業づくり
- ・ユニバーサルデザインの環境づくり
- ・基礎学力の定着 ・支援体制の工夫

(研究の方法)

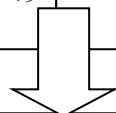
- ・理論研 ・研究実践 ・実践のまとめ (研究集録)
- ・学級担任間の授業交換の成果と課題の検証

### 4 研究体制等



5 2年間の取組概要と成果 <1学年3学級規模。学級担任と級外教員による教科担任制>

1年次の取組概要と成果	1年次の課題
<p>&lt;5年、6年とも社会、理科、図工における担任による授業交換&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科担任は、担当する教科に集中して教材研究を進めることが可能。同じ授業を複数回実施することによる授業の質の向上</li> <li>・学年全体を同じ規準で学習評価することによる評価の妥当性、信頼性の高まり</li> <li>・複数の教員により児童の様子を多面的に捉えることによる学級経営、生徒指導の充実</li> <li>・児童が教科担任制に慣れることによる中学校への学習面での段差の解消への期待</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や出張、急な時間変更への対応が困難</li> <li>・学年で授業について相談する時間の確保</li> <li>・教科担任制の組み方によって教員の負担が減らない。</li> <li>・保護者への取組の周知</li> </ul>



2年次の成果
<p>&lt;5年（社会、理科、音楽）、6年（社会、理科、図工）の担任による授業交換&gt;</p> <p>【児童の学習に対する意識調査より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5・6年児童の学習に対する意識調査によると、「授業はわかりやすい」「集中して授業に取り組むことができる」「担任以外の先生とも話がしやすくなった」等の項目で肯定的な評価が多く、昨年の結果と同様の傾向にあった。昨年から教科担任制の授業を受けていた6年生は、教える人がかわっても負担感を感じる児童は少なくなったのは、中一ギャップを乗り越える大きな成果であると考えられる。本年度6年生を昨年のデータと比較すると、「先生が変わると教え方が違うので戸惑うことがある」という項目に対して、「とてもそう思う」評価が5分の1に減った。教科担任制が児童の中に浸透して慣れてきているのを感じる。中学校に行った時の教科担任制に早くなじめると思われる。</li> </ul> <p>【教員の意識調査より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年の教員は、おおむね肯定的な評価であった。同じ教材を3クラスで活用したり教材研究を深めることができたりするだけでなく、複数回授業する中で授業改善を図ることができる。その繰り返しで教員の授業のスキル向上につながると考える。また、昨年の課題である打ち合わせの時間をとるために、時間割の中に打ち合わせに時間を確保し児童理解や授業の情報交換などに使えるようにしたことは効果的であった。</li> <li>・高学年では学年での指導や学級を解いて他の学級の児童に指導したりする場面も増えてくるが、普段から教科担任制で関わっていることにより、効果的に指導ができていると思われる。生徒指導面でも複数の教員で情報共有することにより大変成果があった。</li> </ul> <p>【保護者の意識調査より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「高学年から一部教科担任制を行うことはよいことだと思いますか」という項目では、90パーセント以上が肯定的な評価をしている。</li> <li>・「教科担任制を行うことはよいことだ」「中学校へのスムーズな移行に効果がある」という回答が多く、教科担任制の導入は、保護者の理解と賛同が得られたと考えることができる。</li> </ul>

効果的な取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・急な時間変更があったときに級外職員が関わることで、誰もいないクラスがないようにしたが、この体制を続けるためには加配教員の配置による級外職員の人数確保が不可欠である。</li> <li>・他の学年より出授業などを多めに高学年にとったり、高学年優先の時間割を組んだりすることで、学年一斉に打ち合わせできる時間が確保できた。これも、級外職員がいるためにできることである。</li> <li>・昨年は、5年、6年と違う教科担任制の組み方をしたが、本年度は、効果のあったやり方一つに絞って取り組んだ。</li> <li>・全国学力・学習状況調査の結果に関する文書等で教科担任制を紹介するなどしたことにより、保護者の教科担任制についての理解が深まった。</li> </ul>